afterword

思いが集まり、交わり、共に考える場を

理事長　亀井善太郎

酷暑の中、第16回AEFAフォーラムに多くの方々にご参加をいただきましたこと、改めて御礼申し上げます。

6ページでお伝えした通り、フォーラムでは、現地で実施しているプログラムを実際に体験いただきました。参加された皆さんは、ラオスやベトナムの子どもたちの気持ち、その成長を我が身で実感できたのではないでしょうか。自分の思いや考えを自分の言葉で伝える、周りの意見を聞いて違いに気づく、課題について周りと協力する･･･、それぞれの難しさ、そして、楽しさを感じる時間でした。

「自分たちの寄付の使われ方をよく理解することができた」という声をいただきました。皆さまからお預かりする資金が、こうしたプログラムに使われ、山岳少数民族の子どもたち一人ひとりの創造性や可能性を拡げる、豊かな学びに直結していることも実感していただけたのではないでしょうか。ご理解がさらに広がり、これらのプログラムに、さらに多くの方々のご賛同・ご支援をいただければと願っています。



開始時はぎこちなく「はじめまして」だった皆さんも、プログラムの進行ともにどんどん打ち解けていきました。小さな子どもの言葉から周囲の大人が大きな気付きを得る瞬間もありました。高校生の想いの深さと大人の経験が共鳴するグループもありました。様々な形の新たなつながりができる瞬間に立ち会えたことは、僕自身はもとより、AEFA スタッフにとっても忘れられない経験になりました。

それぞれの想いのつながりをさらに深めていくため、今、私たちAEFAが何をしたらよいのかを考えています。

「AEFAの活動内容や現地の状況をもっと理解したい」「活動への具体的な参加の方法を知りたい」「何かしたいけど、自分に何ができるのか、何をすればよいかわからない」という言葉をいただきます。こうした声にお応えする場の一つがフォーラムですが、今後はもっと違う形の場もつくっていければと考えています。その一つが7ページでお知らせしたオンラインの集いです。AEFAの入口の一つになればと思います。

事務所でも、オンラインでも、皆さまとまたお会いできることを楽しみにしています。

AEFA マンスリーサポーター 募集中

AEFA の活動を継続的に支援してくださる「マンスリーサポーター」を募集しています。サポーターの皆様からのご寄付は、アジア山岳少数民族の子どもたちの可能性をひらく教育支援プログラムのために活用させていただきます。

金額 (毎月)
月額 1,000 円（1口）から 5,000 円（5 口）まで選択できます。
また、児童・学生の方々もご参加いただきやすいように、月額 500 円のプログラムも設定しました。

登録方法
寄付プラットフォームとして実績ある「Syncable」を使用しています。クレジットカード決済が可能です。

1. 右下の QR コードを読み取り、Syncable の AEFA ページにアクセスしてください。
2. 「支援方法」より、「寄付する」を選択してください。
3. 「頻度」の欄で「毎月」を選び、「金額」の欄で月額を選択してください。
4. クレジット決済に必要な情報を入力してください。
5. 登録いただいたメールアドレスに Syncable からのメールが届きましたら受付の完了です。

Syncable
https://syncable.biz/
「アジア教育友好協会」で検索

個人と非営利団体を繋ぐプラットフォームサービス
Syncable（シンカブル）に登録しています

Syncable　https://syncable.biz/
「アジア教育友好協会」で検索

当サイト経由で AEFA 会費・寄付のカード決済ができます

AEFA Web & SNS
Web Site　Facebook　Instagram

私たちは各国のパートナーNGOと手を携えて活動しています。

ベトナム：Research & Communication Centre for Sustainable Development (CSD)
ラ オ ス：Association for Community Development (ACD)
タ　　イ：Raks Thai Foundation (CARE Thailand)
スリランカ：Rotary Club of Colombo (RCC)

AEFAフレンド会報

40号
2025年11月10日



特集　子どもたちに「いちばんいいもの」を届けたい
～ベトナム　レインボーライブラリーの進化～

AEFA フォーラム開催・オンラインの集い

AEFA アジア教育友好協会
Asian Education and Friendship Association

〒102-0074　東京都千代田区九段南 2-3-22　アーバンセカンドビル 3F　TEL : 03-6265-6490　FAX : 03-6265-6491

子どもたちに「いちばんいいもの」を届けたい

～　ベトナム　レインボーライブラリーの進化　～

桃太郎が桃子だったら？

昔むかし、あるところに、の日本昔話「桃太郎」ですが、主人公が桃太郎ではなく桃子だったら？　お話の舞台が現代の日本だったら？　みなさんはどんな物語を考えますか。

今年7月に開催したAEFAフォーラムでは、参加者の皆さまに「桃太郎」を題材としたオリジナルストーリー作りに挑戦していただきました。あちらのグループでもこちらのグループでも、思いもよらない設定や意外な展開・結末の独創的な物語が生まれました。

これは、AEFAの教育プログラムである「レインボーライブラリー」の一部を体験していただいたものです。レインボーライブラリーは、村の外の世界を知らないベトナム山岳少数民族の子どもたちに、本を通して世界を広げる環境を届けたいという願いから生まれたプロジェクトです。当初は図書館の建設と先生による本の読み聞かせが主な活動内容でしたが、今ではオリジナルストーリーの創作、本の主人公を演じるロールプレイ、工作や科学実験、生活スキルの学習など、子どもたちの可能性を引き出す多彩なプログラムを展開しています。

昨年、レインボーライブラリーの企画として初めて行われた「本の虫コンテスト」では、「本」をテーマにした絵、本の紹介、本の登場人物を演じている動画など子どもたちのさまざまな作品が投稿されました。子どもたちが自分で創作した物語も多く、コオロギと友だちになって一緒に旅をしたり、お父さんがウサギに変身してしまったり。子どもたちが作る物語は豊かな想像力に満ちています。人前で話すことができない、お絵描きしても先生の真似をして全員が同じ絵を描くだけ、といった山岳少数民族の子どもたちが、これほどの創造性や表現力を発揮できるようになるのです。

図書館から世界へ旅する子どもたち

ベトナムで「レインボーライブラリー」がスタートしたのは2019年のこと。ベトナム山岳地帯では家庭にも学校にも教科書以外の本がありません。子どもたちが本に親しむ機会も習慣もありませんでした。そこで、本との出会いの場として図書館を作り、先生の読み聞かせや子どもたちの読書感想発表などを通じて読書習慣を身につけるプログラムを実施しました。

最初はたった一校でモデルケースとして始まったプロジェクトですが、初年度のプログラムで予想以上の手ごたえがありました。村を出たことがなく、自分の未来についても限られた職業しか思いつかなかった子どもたちが、海外へ行ってみたい、宇宙飛行士になりたい、と夢を広げるようになったのです。これが大きな励みとなり、翌年度のプログラムは飛躍的に変化しました。







左）12 月の活動はクリスマスの飾り付け　右上）屋外スペースで読書タイム　右下）「海」を作る STEM 実験







上）カラフルな工作作品を手に　左下）航空券を模した図書館入館証　右下）本の世界へ飛び立とう！

レインボーライブラリーでは、図書館の開館後、一年間の読書プログラムを行います。学校ごとにテーマを決め、それぞれのテーマに応じた活動を行います。たとえば、2021年に実施されたスアンバン小学校の読書プログラムは、WANDERLUST（旅行・探求したいという願い）がテーマ。子どもたちはパスポートを模した読書日記帳と航空券を模した図書館入館証をもらい、それを手に、図書館が開く新しい世界へと旅立ちました。10～12月期はアジア、1～3月期はヨーロッパ、4～6月期はアメリカ・南極大陸、7～9月期はアフリカ・オーストラリアと「旅先」決め、毎月の活動を実施しました。たとえば南極大陸がテーマの月には、南極の気候や氷山、ペンギンやシロクマなど南極の生き物、近年の氷床の融解についても学びました。

図書館で「考える・創る・表現する」

今では、読書プログラムはさらに進化しています。テーマは、歴史、科学、環境などから、家族、友情、平等といった概念までさまざま。環境保護や民族の伝統の継承などについての話し合いや、創作活動、実験など、多彩なプログラムが展開されています。

ドンティエン小学校の読書プログラムは「Magic　World（魔法の世界）」です。魔法のようにワクワクする未知の世界を、本を通じて体験します。今年８月はアーネスト・ヘミングウェイ「老人と海」を取り上げました。子どもたちは老漁師サンチャゴが巨大なカジキマグロと格闘する物語を通じてカジキマグロという魚を初めて知るとともに、困難に直面しても諦めないこと、そして真の勝利とはなにかを話し合いました。ペットボトルの中に「海」を作る実験も行いました。水と料理用油をペットボトルに入れ、二つの液体が濃度の違いによって混ざらず、動かすと波のような形になるのを観察し、なぜこのような形や動きになるのかを話し合いました。

５月の活動では「森」「地球」を題材にしました。山岳少数民族の子どもたちは、いつも近くに森がある環境で生まれ育っています。しかし、その森は今、開発や気候変動の影響によって破壊されつつあります。子どもたちは地球環境保護についての本を読んだあと、自分たちは何ができるかを考え、絵に描いて発表しました。

このように、レインボーライブラリーは子どもたちが創造性を育み、科学的・社会的思考を深め、より良く生きるためのスキルを向上させるプログラムへと進化してきています。

先生たちも挑戦する

レインボーライブラリーの読書プログラムで具体的な活動内容を考える学校の先生や司書の方々は大変です。というのも、ベトナムの学校では基本的に”管理”が中心。先生たちにとって、決められた管理プログラム以外のまったく新しい何かを作りあげることは、これまでにない経験なのです。

AEFAの現地パートナーであるCSDには、困り果てた先生から電話がかかってきます。「何をやればいいか思いつかな

い！」「これでいいのか、うまくいくのかわからない！」読書プログラムの毎月の活動内容を考え、準備するというのは、先生たちにとっても自らの創造性を高める経験であり、はじめての挑戦です。CSDはそんな先生たちに寄り添い、指導要領をまとめたテキストを作って先生たちを助けています。

日本の図書館とベトナムの図書館がつながった

昨年7月にCSD代表のアインさんが来日した際、ともに山形で県立図書館や学校図書館を見学しました。そこで見た”日本にはあるがベトナムにはないもの”が、レインボーライブラリーの次の進化につながりつつあります。

ひとつは親たちを読書活動に巻き込むことです。山岳少数民族の親世代には本を読むという習慣がありません。読書の重要性を親たちが理解していなければ、一年間の読書プログラムが終わった後、子どもたちが継続して本に親しむことが難しくなってしまいます。そこで、山形の図書館で児童の保護者が一緒に活動していたことを参考に、ベトナムでも学校の夏休み中に保護者を図書館に招き、子どもたちと一緒に活動に参加してもらいました。そもそも親が学校に来るという習慣がなく授業参観もないベトナムで、これは大きな一歩といえます。

もうひとつは、学校の児童が参加できる図書委員会の設立です。ベトナムでは、図書館運営は先生や司書が行うもので、児童が関わることはまずありません。しかし山形の小学校で図書委員の児童がとてもうれしそうに活動を説明してくれたことをきっかけに、昨年ベトナムのバンヴェン小学校で初めての図書委員会が設立されました。委員たちによる貸し出しルールの決定や本の寄贈を募る活動、他の児童たちの読書を助ける活動が始まっています。

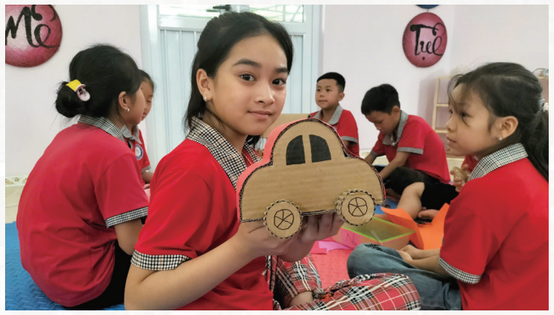
みんなで作る「いちばんいいもの」

プログラムが成功を収めると、同じプログラムを踏襲したくなるものです。しかし、レインボーライブラリーでは同じプログラムを繰り返すことや同じテーマを他校にコピー展開することはありません。学校は一つひとつ違います。先生たちも、子どもたちも一人ひとり違います。レインボーライブラリーは、CSDとAEFA、学校の先生、そして参加する子どもたちが一緒に作り上げていくもの。だからこそ、その時・その学校にしかない唯一無二のプログラムが生まれます。そのようにして生まれるプログラムこそが「いちばんいいもの」だと私たちは考えています。

本との出会いの場から、新しい世界を知る場へ、そして先生や子どもたちの可能性が引き出される場へ。レインボーライブラリーは進化を重ね、日本の支援者にも支えられてここまで成長してきました。これからもそれぞれの学校、先生や子どもたちと一緒にいちばんいいものを作り上げていきたい。この思いがあるかぎりレインボーライブラリーの進化は続きます。







上）読書に夢中　左下）司書の先生による読み聞かせ　右下）「将来は電気自動車を作るエンジニアになりたい」









上）リサイクル素材でお花をつくった　左下・中下）1館ごとに異なるカラーと手描きの壁画　右下）「赤ずきんちゃん」の演劇をしました

レインボーライブラリー

テーマロゴに込められた願い



バンヴェン小学校：シマウマ（英語でゼブラ）



タンタイン1小学校：水と緑が豊かな地球



ティエンボ小学校：読書好きのキャラクター

レインボーライブラリーは実施校ごとにテーマとロゴがあります。

バンヴェン小学校のロゴイメージはシマウマ。支援者の一般社団法人ゼブラ社会貢献支援協会（ZESCO）様にインスパイアされたデザインです。

シマウマは、アフリカ原野において肉食動物に補食される弱い立場の動物です。そのため群れとなって協力して命と生活を守ります。山岳少数民族の子どもたちも、たとえ弱い立場にあっても団結し協力して生きていく力をつけてほしい、との願いがこめられています。

シマウマの縞模様は一頭一頭異なるそうです。子どもたちも一人ひとり違う個性を持っており、それを大切にするという点でもシマウマのイメージはテーマにぴったりです。

タンタイン1小学校のテーマは、NATUREです。山に囲まれた緑多い農村地帯にあり、レインボーライブラリーと、農薬を使わず自然にやさしい野菜を育てる「オーガニックガーデン」プロジェクトも行われました。緑ゆたかな地域だからこそ、自然をテーマにした取り組みが行われました。

ティエンボ小学校のテーマはBookish(本に夢中)、ロゴはオリジナルキャラクターBookyです。好奇心旺盛でもの知りなBookyと一緒に子どもたちが本をたくさん読んで、本の世界から多くの事を発見し学んでほしい、との想いをこめました。

第16回

AEFA フォーラム開催

2025年7月6日（日）、東京市ヶ谷のJICA地球ひろば国際会議場において第16回AEFAフォーラム「今、アジアで教育活動に取り組む意味　～ベトナム・ラオス・スリランカの現場から～」(後援：国際協力機構（JICA）、JICA地球ひろば)を開催しました。小さなお子さんからシニアの方まで、幅広い年齢層の約60名の参加をいただくことができました。

まず、理事長の亀井より、最新の現地の様子をお伝えしました。AEFAの活動現場は、都市部とはまったく異なります。ベトナム、ラオス、スリランカ、どの地域も戦争の影響が色濃く残り、近年の経済発展から取り残され、格差も拡大しています。また、山岳少数民族の子どもたち特有の言語や古い慣習などの課題を抱えていることなど、私たちの活動の背景を改めて共有しました。

その後グループに分かれ、参加者の皆さんは、実際に現地でおこなっている教育プログラム「リトルシェフ」と「レインボーライブラリー」を体験しました。

リトルシェフでは、まず、国全体で使う栄養マップと現地のNGOが作成したリトルシェフで使う栄養マップを見比べて、その違いを話し合いました。「国のマップにはパンや牛乳など店で購入するものがあるけど、リトルシェフのマップには、それが無くて、地元の森や山に自生する食べられる草の実や山芋や果物が描かれている」という発見がありました。

現金収入が少なく、パンや牛乳の購入が難しい現地においては、国から提供されるマップでは、子どもたちの生きる力に直結する本質的な学びは得られません。身の回りにある栄養に気付き、正しい食料摂取を学ぶためにも、リトルシェフ独自の栄養マップが必要です。リトルシェフのプロジェクト資金は、こうした栄養マップの作成にも使われています。

その後、マップに書かれた食材を使った料理のメニューを



会場のようす

考え、発表して、みんなでその味わいを想像してみました。

リトルシェフは、食糧支援と受けとめられがちですが、実は栄養をテーマとした教育プログラムです。少数民族の子どもたちが栄養や保健衛生について学び、村の人々の前で大人たちや小さな子どもたちに正しく伝えることを通じて、主体性や自信を育て、言語をめぐる課題の克服を実現します。

経済危機が長期化するラオスでは、「食べ物を入手し、効率よく栄養を摂取する」「手洗いや爪切り、髪を洗うことで清潔を保ち、病気を予防する」ことを子どもたち自身でできるようにならねばなりません。こうした生きる力を身につけ成長していく、生きる根っこをつくるためのプログラムです。

続いてのレインボーライブラリーの体験では、みんながよく知る物語の主人公を変えてみるというプログラムに取り組みました。今回は、日本の参加者に合わせて「桃太郎」を題材に、オリジナルストーリー創作に挑戦しました。発表では、それぞれの発想豊かな「シン・桃太郎」に、たくさんの笑いと拍手が起きていました。

自らの発表に真剣に耳を傾けてくれる他者の存在、他者の発表を聞きながら、自分との違い、その発想の豊かさに驚き、そこから学ぶこと、現地の子どもたちを思い起こしながら、そうした大切さにも気付く貴重な時間となりました。







左）プログラムの栄養マップ（手前）と国の栄養マップとの比較　中）テーブルごとに熱心なディスカッションが　右）小さな参加者の姿も

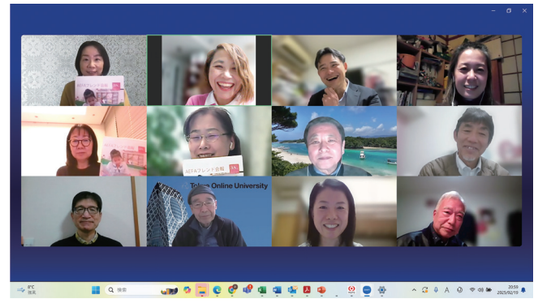
どんな参加の仕方でもOK!

AEFA オンラインの集い

今年2025年から、「AEFAオンラインの集い」を、原則偶数月の第三水曜日夜に開催しています。テーマは現地の話や活動の内容、ボランティア活動紹介までさまざまです。

とてもカジュアルでオープンな雰囲気の、気軽に参加できる小規模オンラインイベントですから、「こんな初歩的な質問をしてもいいのかな？」「こんなこと言ったら場違いかも？」「知らない人ばっかりだと気おくれする…」という心配は無用です。発言してもよし、しなくてもよし、みなさんの話を聞く「耳だけ参加」でもかまいません。

会報だけでは分からない知識や情報を得て理解が深まったり世界が広がったり、他の参加者の話から自分の中で”化学変化”が起きたり。（まるでAEFA教育プロジェクトのようですね。）　参加者からの提案を受けて、新しい企画も生まれています。



「何かしたいけど、それが何かわからない」「自分は何ができるのか」という声を分かち合ったり、具体的に活動している人の話を聞いてみたりすることで、その「何か」がカタチとなり、思いがけない新しい繋がりができるかもしれません。

ご興味のある方、参加希望の方は、AEFA事務局までメール等でご連絡ください。オンライン会議システムZoomを使用し、使い方に自信がない方は事務局がサポートします。

asia@nippon-aefa.org

これまでの開催内容

AEFAフレンド会報を読む会：会報の中で気になった部分について自由に質問
山形ワークショップを体験してみよう：未来の図書館について話し合ってみる
「レインボーライブラリー」プロジェクトの進化：日本の図書館に触発された変化
ベトナム出張報告会：訪問先の学校や出会った人たち、亀井理事長の珍道中、など
フォーラム参加者の集い：第16回AEFAフォーラムの振り返り
AEFAがきっかけで、日常的に国際協力・国際交流：体験を語る

計画中

- ラオスはじめて講習会
- 会報40号を読む会
- レインボーライブラリー
  ～「本の虫コンテスト」ってなんだ！？

身近な場所で、最初の一歩を踏み出そう

AEFA会長 谷川 洋

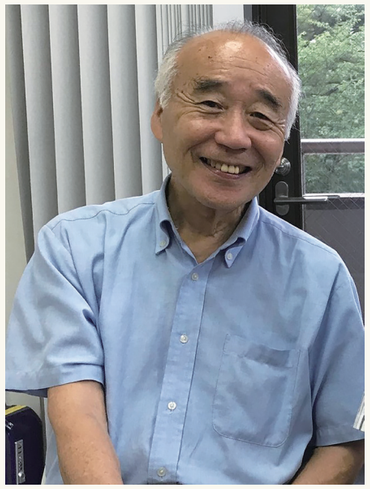
諸事情により今年のAEFAフォーラムには参加できませんでしたので、この場をお借りして、AEFAを応援してくださる皆さまに心から感謝申し上げます。

活動を継続していく中で、政治情勢やインフレ、経済危機や為替の大きな変動など、頭が痛くなる課題は多々あります。苦しく感じることもありますが、21年前にAEFA の活動を立ち上げた当時と同じ、くよくよしても仕方ない！「よし！やれる！やるぞ！やろう！」の気持ちで前に進みます。

昨年10月に、「杉並区いきいきクラブ連合会」文化部の主催イベントで講演を行いました。杉並区には私の住まいがあり、また、同区の方にとってもご近所の方が集う、近くて安心できる場所です。遠い海外で行われている国際協力は敷居が高くで…と感じるかもしれませんが、案外身近なところにも、国際協力について知る、考える場はあります。

今後も講演を続けていきたいと考えています。AEFAの活動をアジアの写真や動画で紹介し、現地への理解と友好を深める交流の場となればと思います。

身近な場所で気軽に最初の一歩を踏み出してみませんか。気持ちを同じくする人たちとの出会いがあるかもしれません。



AEFA プロジェクト Now

2025年9月末現在

教育の場を整える学校建設から始まったAEFAの活動は、近年の現地の環境の変化を受け、図書館活動や奨学金などの教育支援プログラムにも広がってきています。
現在進行形・計画中のAEFAプロジェクトを、現地からの報告を交えてまとめてお伝えします。

学校をつくる、ととのえる

国名・学校名・支援者名（敬称略）を記載しています

完成	ラオス **ナボーン中高校教員寮** 株式会社フォーサイト	サラワン県ラオガム郡にある地域の基幹校です。教室不足を解消するため校舎の増設、遠くの村から学ぶ女子生徒のため女子寮、井戸・浄水器を継続支援してきました。このたび念願の教員寮が完成し、先生たちの住環境が整備されました。経済危機が長期化し、生活が厳しい先生たちのモチベーションを支えています。写真①
建設中	ベトナム **ドイホン分校** 株式会社カナオカ	中越戦争当時戦火から逃れてきた人々が集住する地域で、8つの民族の子どもたちが学ぶ学校です。年々児童数が増え、老朽化した校舎は危険で使用できないため教室不足となっています。4教室の新校舎を建設しています。
建設中	スリランカ **ランミヒタンナ小中学校** エルセラーン1%クラブ	南部州の貧困地域にありながら、児童生徒の学習意欲はきわめて高く、修了試験でも良い成績をおさめています。現在の校舎は教室不足で、一般授業は可能ですが、それ以外の活動ができない状況です。2教室の新校舎を建設しています。
建設中	スリランカ **スリロハナ小中学校** エルセラーン1%クラブ	南部州の経済的に大変厳しい地域にある学校です。児童生徒数に対し、教室が不足しています。音楽や舞踊などアートに興味関心と才能のある生徒が多いものの、木の下や野外で学んだり練習をしています。2教室の新校舎を建設しています。
調整中	ベトナム **サマン分校** 一般社団法人 ゼブラ社会貢献支援協会（ZESCO）	2025年9月の台風被害で地滑りが発生、人的被害はなく村人も子どもたちも無事だったものの、村の民家が3軒流され、学校の教員室も破損してしまいました。安全な土地へ集落ごと移転することが決まり、学校建設プロジェクトは新たな土地で2026年に実施されます。
募集中	ベトナム **フアプー分校**	タインホア省山岳部、最も貧困度の高い地域です。2~5年生児童は10キロ離れた本校へ通い、1年生は村の幼稚園に間借りして学んでいます。子どもたちが地元で学べるよう、2教室＋教員室の新校舎及びトイレ棟が必要です。
募集中	ベトナム **クートー分校**	ラオカイ省山岳部の経済的困難を抱える地域にある学校ですが、通常のカリキュラムに加え、子どもたちに自分自身を表現することを学ばせたい、とアートや英語のクラスも行われています。児童数が増えることが見込まれるため教室の増設と、さらなる教育の質の向上のための専科教室の建設を計画しています。
募集中	ラオス **ナカロン小学校**	サラワン県ラオガム郡にあります。今の教室は老朽化して危険な状態で、最も優先度の高い学校です。2教室+教員室が必要とされています。写真②
募集中	スリランカ **サウバグヤ小中学校**	南部州の経済的に厳しい地域にある学校です。現在の校舎は1971年に建設され、築50年以上の老朽化した建物です。児童生徒数も増え、早急に新校舎が必要とされています。

図書館をつくる、本に親しむ

国名・学校名・支援者名（敬称略）を記載しています

進行中	ベトナム **ルォンゴアイ小学校** エルセラーン1%クラブ	少数民族ムオン族の児童が98%以上を占める学校です。少数民族の子どもたちが公用語であるベトナム語を学習するためにも、読書環境の整備と読書啓蒙活動は重要です。
進行中	ベトナム **ルンニエム小学校** エルセラーン1%クラブ	AEFAプロジェクト支援校で本に親しむ活動に取り組んでいた先生が、新たに副校長として赴任した学校です。図書館と読書活動を通した子どもたちの変化を実感したことから、新しい赴任校の子どもたちにもぜひ活動を経験させたいと希望されました。
進行中	ベトナム **アムヒウ分校** 株式会社ディアーズ・ブレイン	少数民族ターイ族の児童が97%を占める学校です。先生たちも、子どもたちの本を読みたいという願いを叶え、読書環境を充実させたいと願ってきました。図書館のほかトイレ棟も新設し、衛生環境を整えます。
進行中	ラオス **スクサムパン中高校** エルセラーン1%クラブ	以前、ACD(ラオスNGO) による教育支援プロジェクト「環境啓もう活動」で、生徒たちが主体となって学校の環境整備や緑化に熱心に取り組みました。学校として、図書館と読書活動への参加も切望、現在建設が進んでいます。写真③
申請中	ベトナム **フォンヴィ小学校** エルセラーン1%クラブ	約500名の児童が学ぶ大規模校ですが、図書室は多目的室と併用しているため、本の収蔵スペースも読書できる時間も限られています。限られた状況ですが、先生たちは本を読書レベルごとに色分けして管理したり、子どもたちが読書しやすいよう出来る限り手助けしています。

募集中

募集中のプロジェクトは、みなさまのご寄付をお待ちしているプロジェクトです。
詳細は、お気軽に事務局までお問い合わせください。

申請中	ベトナム **バクムック小学校** エルセラーン1%クラブ	約800名の児童が学ぶ地域の基幹校ですが、図書室はありません。先生たちは「知識は未来への扉を開く鍵」と熱心に授業や学校活動に取り組んでいます。図書館と読書活動を通して、子どもたちが創造性や積極性を育み、更なる学びを充実させます。
申請中	ラオス **オンノイ中高校** エルセラーン1%クラブ	南部サラワン県にある学校です。近隣の7つの村から約150名の生徒が学ぶ地域の中心基幹校ですが、図書室はありません。図書館が出来れば、生徒が「図書ボランティア」として、先生と一緒に貸し出し簿や図書館の利用ルールを作ったり、主体的に活動します。写真④
募集中	ベトナム **ティップダオ分校**	ベトナム東北部ラオカイ省の山岳部にある学校で、ザオ族とモン族の子どもたちが約9割を占めます。図書館と読書の活動は、少数民族の子どもたちにとって、公用語ベトナム語を学習するために役立ちます。また、読書の活動を通してSTEM（Science, Technology, Engineering and Mathematics）を学んだり実験することができます。写真⑤
募集中	ラオス **ファイルーシ小学校**	南部チャンパサック県にある学校です。学業もスポーツも活発で、地域のモデル校となっています。先生たちは意欲的で、子どもたちの学びのため読書活動に参加したいと希望しています。
募集中	ラオス **ダシア中高校**	南部サラワン県にある学校です。近隣4村から約180名の生徒が通う地域の基幹校ですが、図書館はありません。先生たちは、子どもたちの学びと学校活動を充実させるため、図書館を強く希望しています。

子どもと若者の自立をささえる

募集中	ラオス **リトルシェフ(栄養改善)**	現金収入の手段が限られ生活が厳しい山岳地域の村では、栄養不足により幼児や子どもの発育が遅れていることがデータからも明らかになっています。学校菜園・養魚池等を設置し、栄養と保健衛生について学び、調理実習を行う「リトルシェフ」は、子どもたちが周囲の大人たちと協働しながらリーダーシップを発揮する教育支援プロジェクトで、かつ、食糧と栄養の補給にもなります。
募集中	ラオス **先生基金**	先生や生徒の生活支援のための養魚池を校庭に作る資材や稚魚購入の資金援助、給料が出なくても子どもたちの為に教えているボランティア先生への支援、教員養成校や大学で学ぶ若者たちへの支援などが、経済危機が長期化する今、ラオスで最も必要とされています。写真⑥
募集中	マレーシア **CSO学校運営支援**	Chin Student Organization（略称CSO)は、ミャンマー北西部チン州の山岳地帯から、国軍による弾圧や武力衝突を逃れてきたチン族難民の若者たちが運営する、マレーシアにある学校です。子どもたちの「学びたい」を支えるため、継続的な支援が必要です。



① ナボーン中高校教員寮



② ナカロン小学校



③ スクサムパン中高校



④ オンノイ中高校



⑤ ティップダオ分校



⑥ 養魚池をつくる生徒たち

ラオス
ヌア君からの便り

ヌア・サイクーメン君
11歳　サラワン県サムアイ郡ラロ小学校4年生

会報３９号表紙で素敵な笑顔を見せてくれたヌア君。現在、リトルシェフプロジェクトで活躍中です。

“リトルシェフ“で、保健衛生と栄養の大切さについて学んでいます。この間、”リトルシェフ”の活動で、生まれてはじめて、村の外へ旅行しました。サムアイ郡の他の村の学校へ行って、そこの子どもたちと一緒に、手を洗ったり清潔にして病気にならないようにする、っていうロールプレイをしました。いろんな人が見ていたから緊張したけど、落ち着いて自信をもってやろうね、とはげましあって協力しました。なので、他の村の新しい友だちがたくさんできました。一緒に遊んだり、いろんな話をしたり、知らないことをたくさん教えてもらってとっても楽しかった！　またみんなに会いたいな。


看護師役をロールプレイするヌア君

“リトルシェフ“の活動で、村から外へ出て新しいところへ行ったり、初めてのことをいっぱい見たり聞いたり、新しい友だちができたりするから、すごくうれしいです。

学校をつくることとは「心の風景」をつくること

AEFA理事／建築家 佐川 旭

私達のNPO法人は設立からこれまでたくさんの学校を建てて来ました。

学校を建てようとする場所は、都市から離れた山岳地帯なのでもちろんインフラ整備はなく周辺環境とデザイン面での親和性などはそれ程考える必要はありません。とにかく学校のない村のために一途に学校を建ててきました。それから20年が経ち、そこで学んだ生徒達が、村の風景を記憶に留めながら成長し、未来の自分に向かっているという報告を受ける事があります。私達が建てた学校の三角屋根の入り口をくぐることが、彼ら自身の将来を歩んでいく第一歩だったのです。


中央にある三角屋根の下に入り口があります

遠くの山並みを背景として野原に建てられた木とレンガの小さな校舎は特別にデザインされたものではありません。しかしその光景はそこで生活した子供達の記憶に刻まれ、そしてその風景の中に自分自身の姿を投影し、俯瞰的に捉える力を養っていたのです。つまりそれはその後の、彼らが経験する別の場面においても、ここで身につけた俯瞰的な物の捉え方や考え方が、自分がどう生きるかの指針となってくれるはずです。

一方都会で暮らす我々はどうでしょう?人とのコミュニケーションや情報収集の手段も手元のパソコンやスマホに頼りがちで、体感や経験に基づいての行動が減っているような気がします。

このような日常生活を送ることで、私達の物の見方や考え方が気づかぬうちについ近視眼的になっているのではないかと、一抹の不安を覚えることがあります。

あらためて、私達の建ててきた学校は単に学校というハコモノをつくってきたのではなく、現地の子供達がその風景の中に置かれた自分を見つめるところから視野を広げ、進む道を照らしていくための道標です。

彼らにとっての「心の風景」を創ってきたのだと時の経過とともに気づかされるのです。

坪井未来子の
ベトナム遠景・近景 ⑤

「歩道」とは何か？
――ベトナムのVia hèに立って考える

歩道とは何か？

この問い、ベトナムのハノイやホーチミンにいらしたことのある方なら、一度は考えたことがあるのではないかと思いますが、いかがでしょうか。未体験の方のためにご説明いたしますと、ベトナムの「歩道」ってガタガタぼこぼこ、飛び出す巨大な木の根っこ、バイクの駐輪場、ひしめく屋台やそのテーブル、誰かの盆栽たち、はたまたぴったり歩道サイズで駐車されている車がある場所なんです。

加えて、歩道だけど時にはけたたましくバイクも通るし、混濁した水溜まりや、生きていたりそうでなかったりする昆虫や小動物、複雑に絡まり合った電線、将棋やバドミントンをする人々、おばあちゃんにおかゆを食べさせてもらいながら走り回るベイビーなどが目の前に次々と現れ、歩行者は車道に追いやられることも。まるで障害物競走です。

「歩道」って、何だっけ？

なぜ歩く人が優先されないの？

歩道って誰のもの？

大汗をかきながら、そんな風に苛立ちを覚えたことのある方も多いのではないでしょうか。

実は、そもそもベトナム語には日本語の「歩道」にぴったりの言葉が無いのです。一応Via hè (ヴィアヘー) が法的には「歩道」に当たるということにはなっているのですが、語源的には「道の端っこ」ほどの意味で、単に「歩く人のための道」というわけではありません。もっと広くて深い意味合いを持った、多目的空間なんです。それに気づいたとき、「歩行者に冷たい」と思っていたVia hè が、とても温かくてやさしい空間に見えてきました。

ありとあらゆる商売をする人たちが、そこにいます。

カフェ、スムージー、おこわ、バインミーなどの軽食、フォーなど各種麺、居酒屋などが、時間帯によって器用に住み分けていますし、ほかに八百屋、理髪店、ズボンのすそ上げ屋、バイク修理、ネイルアート、鍵修理屋なども並びます。そのわきを宝くじ売り、たばこ屋、ネズミ捕り売りなどが歩いて、あるいは自転車で、時には車椅子で通り抜けていきます。

ここで商いを続けるのは、店舗を持てない、社会の上層ではないところにいる人たちです。厳密には違法だけれど、何となく黙認され、ゆるやかな秩序の中、Via hèで生計を立てている人たち。

彼らの営みには壁が無く、出入りが自由で、開放感があります。そんな空間を愛し、人びとが集まり、街の賑わいを生み出しています。何と懐の深い空間でしょう。

「ハノイでうまいものを食おうと思ったら、Via hèに行かなきゃ」なんてこともよく言われるように、Via hèはまさに、人びとに愛され、必要とされているインフラと言えるでしょう。社会のいろいろな層や制度の間に柔らかく存在する、緩衝地帯なのだと感じています。

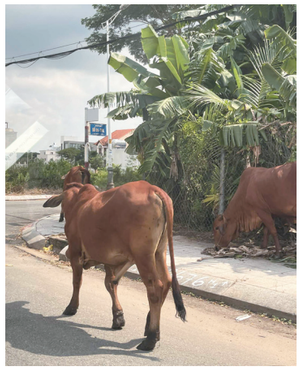
そんなことを考えながら、懸命に居場所を探し、生きる道を求めているひとりひとりの人生に思いを馳せると、なんだか心がじんわりと温まります。

あんなに待ち望んでいた、広々として誰もが歩きやすい「歩道」が新しくできると、むしろ冷たくて寂しい空間に思えてきて、「あそこでサトウキビジュースを売っていたおじさんは今どこにいるのだろう」などと心配になったりもします。

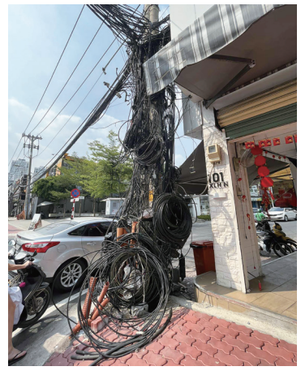
人の顔、街の顔。

人の心、街の心。

違った角度から見ると、違って見えるものですね。


ホーチミン市内でも歩道に牛さんがいます


学校の前は特にひしめき合う


電線を飛び越えてから来い？！